

# あいホール図書だより

あいホールでは、男女共同参画に関する本を収集、貸し出しています。皆さまのご利用をお待ちしています。

2025.12



## スポーツとジェンダー

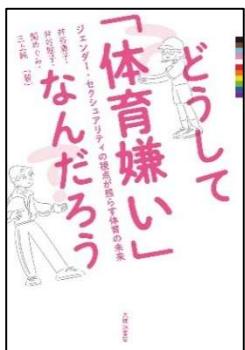


スポーツはアスリートだけのものではありません。体育やクラブ活動、健康づくり、体力づくり、スポーツ観戦もスポーツのカテゴリーに入れるとしたら、スポーツは多くの人の関心事ではないでしょうか。一方、ジェンダー平等にはほど遠いと言える多くの課題が存在しているのもスポーツです。2月にはミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック、3月にはパラリンピックが開催されます。今回はスポーツの祭典の開催を前に、スポーツとジェンダーについて考える本を紹介します。

### 体育ぎらいは本人のせいじゃない？

『どうして「体育嫌い」なんだろう  
ジェンダー・セクシュアリティの  
視点が照らす体育の未来』

井谷恵子、井谷聰子、  
関めぐみ、三上純 著  
大修館書店 2025年



「体育嫌い」が個人の問題ではなく、社会のしくみや教育内容の問題だとしたら。体育嫌いの声を聞き、体育の当たり前を問い合わせています。生涯を通して人が運動との豊かな関わりを築くために今の「体育」のあり方を考える一冊です。

### 世の中を変えた女性の物語

#### もう2冊紹介

女性の首筋は土俵にあがる？！

★『女はなぜ土俵にあがれないのか』  
内館牧子 著 幻冬舎 2006年

昭和的  
スポーツ観  
からの脱却  
とは

★『スポーツの価値』  
山口香 著 集英社 2023年



『世界を驚かせた女性の物語  
私はまけない！  
たくましい女性アスリートたち』

ジョージア・アムソン-ブラッドショー 著  
リタ・ベトルッチオーリ 絵  
阿蘭ヒサコ 訳 旬報社 2020年

女性が男性と同じようにスポーツを楽しむことができなかつた時代があります。そんな時代に「なにができるかは自分自身が決める」と信じて突き進み、それぞれのスポーツの開拓者となった女性アスリートの物語です。

### あいホール図書利用案内

あいホール図書コーナーでは、運転免許証などの身分証明書をお持ちいただければ、その場で利用登録ができます。  
あいホール休館日は、ご利用できません。

利用時間 9:00~21:00

貸出期間 2週間（貸し出し無料）

図書・雑誌・紙芝居 1回につき3点まで  
DVD等（視聴覚資料） 1回につき1点まで

## 自分の強さを考える

『女の答えはリングにある  
女子プロレスラー10人に  
話を聞きに行って考えた  
「強さ」のこと』

尾崎ムギ子 著  
イースト・プレス 2022年



著者と編集者の往復書簡からはじまる女子プロレスラーへのインタビュー集。女子プロレスラーの言葉は、著者自身の人生を重ねて紡がれていきます。プロレスに興味のない読者にも響くのは、著者に心を寄せてしまうからかもしれません。登場する10人のレスラーを検索しつつ、女子プロレスを見てみたくなる1冊です。

## 新着図書から

『アザー・オリンピアンズ  
排除と混迷の性別確認検査  
導入史』

マイケル・ウォーターズ 著  
ニキ リンコ 訳  
井谷聰子 解説  
勁草書房 2025年



1930年代、当時の性別規範から外れた女性アスリートたちの人生を追いつつ、性別確認検査の起源をたどる本です。  
今でも国際大会などで女性のみに行われている性別確認検査、男性と女性のみに分類し行われるスポーツのあり方を深く考えさせられる1冊です。



新着図書  
こちらから  
更新！



ほぼ毎月  
更新！

あいホール 浜松市男女共同参画・文化芸術活動推進センター

〒433-8123 浜松市中央区幸3丁目3番1号

TEL: 053 (412) 0351 FAX: 053 (412) 0377

Mail: [info@ai-hall.com](mailto:info@ai-hall.com) URL: <https://www.ai-hall.com>

浜松駅バスターミナル 13番乗り場 50番  
市役所山の手医大行き「あいホール」下車徒歩1分  
※有料駐車場有（100円）

## もう3冊紹介

★『エトセトラ VOL. 6  
特集スポーツとジェンダー』

井谷聰子 責任編集  
エトセトラブックス 2021年

★『「女子マネージャー」の社会学』

関めぐみ 著  
左右社 2025年

★『女性コーチ～それぞれの歩み～』

小谷究、三倉茜 編著  
流通経済大学出版社 2021年

司書の  
**推し本**



『おっさんの揃  
「大阪のおばちゃん」が見た  
日本ラグビー協会  
「失敗の本質」』  
谷口真由美 著  
小学館 2022年

当時オリンピック組織委員会会長だった森喜朗氏の女性蔑視発言、いわゆる「わきまえない女発言」は、看過できないと訴える多くの声を集め、日本のジェンダー平等に対するフェーズをあげたと思われます。

この出来事が本書の内容と深く関わっていることが、読み進めていくうちに分かり始める

と、興奮を抑えることができませんでした。  
著者がラグビー協会の責任ある立場にいた時の経験を綴った本書は、ジェンダー格差解消を目的に女性の登用を進める難しさをこれでもかと伝えてくれます。

今年もラグビーシーズンが始まりました。ラグビーの盛り上がりの中に著者の功績が息づき、多くの人が楽しめるスポーツになって欲しいと思います。

（あいホール図書担当）

